

暫時休憩いたします。

再開を2時5分といたします。

〈午後1時53分 休憩〉

〈午後2時05分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、緊急課題の取組について（医療編）。

(1) 医療体制の拡充策について。

- ① 上越3市エリアへの県内3機目となるドクターヘリの導入とドクターカーの配備を、県に要望を行っているか。
- ② 産科医をはじめとした医師確保には、報酬額のほかに医療訴訟対策費、ゆとりある勤務、子供教育の水準が問われるが対策はあるか。
- ③ 全国の産科医に緊急調査を行い、糸魚川市で働く場合の条件について逆提案をしていただく仕組みを考えているか。
- ④ 「ないものは自分たちで作る」という発想から長期計画として、「小学生から始める医師育成制度」の創設を県と医師会と連携して取り組む考えはあるか。

(2) 带状疱疹予防接種の助成制度創設について。

東京都では都議会公明党の提案により、50歳以上を対象に接種費用を助成する区市町村に対して都が半額を補助する制度が今年度から始まりました。各市町村で対応されているようです。新潟県内では南魚沼市が、今年4月1日から助成制度を始めた。糸魚川市も早急に検討する考えはあるか。

2、緊急課題の取組について（行政改革編）。

(1) 行政窓口の拡充について。

「書かない窓口」と「行かない窓口」と「お悔やみコーナー」の設置を考えているか。

(2) L G B T Qの対応について。

- ① 公共施設における多目的トイレの増設は考えているか。
- ② 市内小中学校の制服における配慮を考えているか。

(3) 発達障害、適応障害がある方の就労支援について。

- ① 草刈りや除雪で働ける仕組みをシルバー人材センターと共に調査研究する考えはあるか。
- ② 24時間の中で好きなタイミングで働く形を民間業者と調査研究する考えはあるか。

3、駅北まちづくり戦略について。

(1) 「こども消防隊」市内外隊員の育成と交流拡充について。

- ① 市外の子供たちを対象に1日入隊体験会の開催はできるか。
- ② (仮称) 駅北子育て支援複合施設にこども消防隊本部(窓口)を設置できるか。
- ③ 消防職員の確保対策として、こども消防隊員が卒業する際、採用試験「虎の巻」の贈呈はできるか。

(2) 駅北エリアの歩行者天国化について。

- ① 街歩きゲームや街歩きスタンプラリーの企画を考えているか。
- ② 子供や親子が寄りやすいお店づくりに支援を考えているか。

(3) まちなか子どもラボ(実験室)の展開について。

- ① 空き家や空き店舗を生かして大人たちが持っている知識や教養、技術や経験を子供たちに提供できる仕組みを考えているか。
- ② お菓子作りやお料理を体験する理系的な考えと家庭的な考えを習得する取組は考えているか。

(4) キターレの活用手法について。

- ① 生きた経営を学ぶ「高校生カフェ」の部活導入を考えているか。
- ② 高齢者や就労者向けに「ほっこり館駅北店」を考えているか。

4、学校教育について。

(1) 小中学校の不登校等について。

- ① 起立性調節障害、脳脊髄液減少症等の認識を広める取組や相談窓口の設置はあるか。
- ② 様々な症状や事情で登校できない場合、リモート授業や時間外登校などの対応はできるか。
- ③ 虐待やヤングケアラー等が原因の場合、相談窓口の設置や相談後の対応はどのようになっているか。

(2) 教職員の資質向上と負担軽減について。

教職員の使命感に依存していると、頑張りが利くときはよくても心が折れたり、突然休まれると子供たちへの影響が大きいと考える。

- ① 外部者による教職員の就労実態調査はできるか。
- ② その調査結果により、市が雇用する教職員制度を創設し、学校に派遣することはできるか。
- ③ 弁護士や司法書士による教職員相談体制をつくり、糸魚川市に安心して働ける環境整備をする考えはあるか。
- ④ 県と協力して教職員採用者の奨学金返済免除制度の創設を考えているか。

5、キャリア教育と新しい働き方の提供について。

(1) キャリア教育について。

- ① 経済格差が学力格差をもたらしていると平成28年の厚生労働省の調査にある。体験格

差解消の取組は考えているか。

- ② 「マニュアル思考」から「自分で考える思考」へ転換する取組としてどのようなものを行っているか。
- ③ 国内で需要が高い理系学生の育成を考えているか。医師をはじめとした理系人材の養成を幼少期から行うプロジェクトの考えはあるか。

(2) 新しい働き方について。

- ① 農林水産業のスマート化について取組はあるか。
- ② 農福連携事業の取組はあるか。
- ③ 高齢社会を踏まえた市内の産業構造の転換を考えているか。

(3) 海洋高校の産官学連携事業について。

- ① 潜水士等の建設業との取組はあるか。
- ② 近畿大学等の養殖産業の進展はあるか。

(4) 外国人材の積極的導入支援策について取組はあるか。

(5) 自然環境を生かしたサテライトオフィスの拡大策について、空き校舎等を生かす取組はあるか。

6、（仮称）駅北子育て支援複合施設について。

(1) 子育て支援機能について。

- ① 子育て支援機能自体については反対意見がないものと受け止めているが、具体的にどのような機能の要望が多いか。
- ② 子供が少ないことと市内の子供が抱えている問題を立て分けて説明を行ってきたか。施設整備ばかりになっていないか。
- ③ 糸魚川市に屋内遊戯施設がないことについて、他の自治体と比べてどのような点で課題があるか。
- ④ 市内に若い人たちが定着しない理由について、子育て世代の方の意見や考えを聞く明確な場所がないからと考える。この際、子育て世代の様々な声を受け止める施設にする考えはあるか。

(2) にぎわいの拠点施設について。

- ① 改めて「にぎわい」の定義を明確にする考えはあるか。
- ② 子供たちの生きる力を育成する大切な拠点施設になると思うが、駅北エリアの分散型施設の展開はどのように考えているか。
- ③ まちづくり戦略の「民間の役割」についてこれまでに動きはあるか。
- ④ 市民（親子）にとって居心地のよい場所を目指す考えはあるか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、3機目のドクターヘリ導入の要望は行っておりません。ドクターカーの配備は、今後の地域医療再編により検討される課題の一つと捉えております。

2つ目につきましては、糸魚川総合病院と協議を重ねながら、必要となる支援策を講じており、引き続き状況に応じた支援策を検討してまいります。

3つ目につきましては、現時点では考えておりません。

4つ目につきましては、小学生から始める医師養成制度の創設は現時点では考えておりませんが、子供たちが医師を目指すきっかけとなるよう、キャリアフェスティバルに若い医師や研修医から参加いただき、医師のやりがい等を伝えていただけるよう検討を進めているところであります。

2点目につきましては、現在、国の専門機関により、予防接種法に基づくワクチン接種の議論が進められており、これらの動向を踏まえながら対応を検討してまいります。

2番目の1点目につきましては、DX推進計画庁内委員会で「書かない窓口」の検討を行う予定で、「行かない窓口」は一部実施しておりますが、今後、実施範囲の拡大に努めてまいります。また、お悔やみコーナーの設置についても、現在検討を進めております。

2点目につきましては、制服は入学時に生徒が選択できるよう配慮いたしており、多目的トイレは施設の状況等により対応してまいります。

3点目につきましては、国でも多様な働き方の実現を推進しており、社会や働く人のニーズを把握する必要があると考えております。

3番目の1点目につきましては、市内の子供の受入れや子育て支援複合施設への本部の設置は考えておりませんが、多くの子供たちから消防防災フェアでの体験や交流等を通じて、消防防災に関心を持ち続けていただけるよう努めてまいります。

2点目につきましては、地元の商店街などが実施しており、市では商店街のにぎわいづくりの創出を支援しております。

3点目につきましては、民間事業者による取組も含め、検討してまいります。

4点目につきましては、キターレは高校生が学校帰りに勉強している姿などもあり、自然な居場所という雰囲気は大切にしながらも、様々な人のチャレンジをする気持ちを実現する場であるよう支援していきたくと考えております。

4番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

5番目の1点目につきましては、様々な体験学習を通じて、子供たちがより高い夢を持ち、夢をかなえることができるよう主体的で対話的な深い学びにより、思考力や判断力を育てております。

2点目につきましては、ICTなどの先進技術の導入や障害者の就労継続支援施設の農業参入が行われております。

3点目につきましては、教育内容の魅力化、高度化、国際化及び水産資源の活用について連携しており、商品開発やマーケティング等を通じて、生徒の課題解決力やコミュニケーション力などの向上が図られております。

4点目につきましては、今年度から市独自に外国人材雇用支援アドバイザーを設置し、相談体制を強化するとともに、初めて外国人を受け入れる事業者に対して、費用の支援も行っております。

5点目につきましては、相談等があれば、対応を検討してまいります。

6番目の1点目の1つ目につきましては、子育て世代の皆様からは、子育て機能に加え、駐車台数を増やしてほしいなどの声をお聞きしております。地元の方々からは、ミニコンビニなどの収益施設や図書コーナー、屋内遊戯場といった機能についての要望をお聞きいたしております。

2つ目につきましては、当初から子育て世代のニーズが高く、子育ての孤立感の防止と併せて、不安などの把握や解消にも結びつく役割を担うものと捉えております。

3つ目につきましては、近隣の自治体でもそのような施設が整備され、当市の積年の課題でもあることから、早期に整備することが必要と考えております。

4つ目につきましては、計画中の施設が子育てをする方の居心地のよい場所となり、子育てに関する様々な声を受け止めることができる施設になるものと考えております。

2点目の1つ目につきましては、復興まちづくり市民会議における定義に基づいて取組を進めております。

2つ目につきましては、まちの拠点施設の一つとして、駅北エリアの公共施設と商業施設などと様々な場面において連携を図りつつ、まち全体としての魅力を高めるような展開が必要であると考えております。

3つ目につきましては、子供向けの遊び場づくりの活動や駅北地域を彩るイルミネーションの活動などが実施されており、今後も市民や民間団体の主体的な活動を支援してまいります。

4つ目につきましては、市民にとって居心地のよい施設となるよう努めてまいります。

以上ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

 蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

 保坂議員のご質問にお答えいたします。

4番目の1点目の1つ目につきましては、教育相談員、スクールソーシャルワーカー等が個別に相談を受け、必要に応じて医療機関につないでおります。また、教職員への研修を通して各症状を理解し、適切な対応ができるよう努めております。

2つ目につきましては、校内の別室や自宅におけるリモート授業、また放課後登校など、児童生徒の状況に合わせて対応を進めております。

3つ目につきましては、こども支援室が窓口となり、学校と連携し、対応しており、状況に応じて児童相談所や糸魚川警察署と連携を図り、対応を進めております。

2点目の1つ目と2つ目につきましては、現在、県が長時間労働の是正に向けて、出退勤記録システムによる勤務実態調査等を実施しております。

市が雇用する教職員制度の創設については、調査結果や学校からの要望を踏まえて検討を進めてまいります。

3つ目につきましては、弁護士を学校の問題解決のために相談員として委嘱し、必要に応じて相談できる体制を整えております。

4つ目につきましては、現時点で創設の考えはありませんが、国や県の動向を今後とも注視して、

進めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

それでは、2回目の質問を行います。

まず、1番目のドクターヘリ、ドクターカーについてであります。

答弁では、ドクターヘリは考えておられないということなのですが、今現状では、やはり医師不足、または今後、地域医療構想に基づいて、場合によっては医師の集約的な体制が組まれていくことも考えられます。そうなりますと医師がいない以上は、もう物で対応していくしかないのかなというふうに考えますと、やはりこのドクターヘリで、実際にはかなり高価なものであり、それもドクターヘリですから、ドクターを乗せるわけですから、そういうところの訓練だとか看護師さんの同乗とかもあるので、さらに高度なことを求められるんですけども、医師が確保できない以上は、やはりそういうドクターヘリで補填してもらおうというのが現実的ではないかなと。当然、全ての患者さんに対応できるとは思いませんけども、でも地域柄やはりそのヘリの活用というのはかなり有効かと思うので、当然、糸魚川市ではなかなか単独では難しいんですけども、地域、近隣の自治体等も連携しながら、糸魚川のこの新潟県の地理を考えたときには、やはり私は3機目、また登山をする方が多いこの地域を考えると、やはりドクターヘリの有効性というのを考えると、ぜひ糸魚川が音頭を取ってもらって、ドクターヘリの推進を図ってもらいたいと思うんですが、改めてその辺の考えはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

ご提言ありがとうございます。全国的に見ても3機の導入している県は、他県をまねるとのことじゃないんですが、今のところ平成29年から2機目を導入していただいて、長岡から30分で到着すると、もちろん状況にもよりますが、そういったことで今、有効に利用させていただいておりますので、またそういった議論が巻き起これば、期を逸することなく、そういった話に乗っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

私は必要だと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

次、2番目、医師確保について、報酬面、また医療訴訟等、ちょっと具体的に書いたんですけど、

ゆとりのある勤務体制、糸魚川総合病院とは相談しながら進めているというんですが、やはり以前からこの問題については、この議場でも議論されているところではありますが、かなり何ていうかな、お医者さんの立場に立った取組というものを明確に押し出していかないとなかなか理解してもらえないというふうに思っておりますので、ましてや家族の理解も得られるような形となると、かなりハードルは高いんですけども、そういった姿勢をしっかり市が見せていかないと、また市民からも何ていうのかな、理解が得られないというふうに考えておりますので、ここは糸魚川総合病院が中心になるかと思いますが、富山大学の病院とも連携する中で、さらにそういったところを進めていただきたいんですけども。何だろうな、多分今も手詰まり感がいっぱいなんだと思うんですね。思うんですけども、やはりそこを何とか、やるためにできることもメニューを見せていくというのも大事だと思うので、その辺もさらに一步考えていただきたいんですけども、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

保坂議員も十分ご承知の上での質問だというふうに受け止めております。糸魚川総合病院については、大勢のお医者さんおられますし、関係の深い富山大学には若い医師、研修医、それから大学の教授もおられて、医師がどういう環境を望むのか、どういう整備が必要なのかというのは、糸魚川総合病院のほうでは把握をされた上で、雇用条件だとか就労環境について整えておるものだと思っております。

ただ、実際まだ産婦人科医から来ていただいてない、そういう事実もありますので、何が不足しておるのかについては、また改めて糸魚川総合病院と協議をしながら、できる支援、市としてできる環境整備については取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

次の3番目の産科医についてもそうなんですけども、結局、糸魚川にある山であるとか海であるとか、具体的には釣りであったり登山であったりするんですけども、本当そういったところもメニューの一つとして紹介するなり、また、その子供の教育水準についても今後しっかり力を入れていくんだとか、そういったところも踏まえて、家族の理解も得られるような形をしていただきたい。これはちょっと要望にしておきますけども、ぜひ検討していただきたいと思います。

次、4番目の、ちょっとこれ力入れてほしいんですけども、ないものは自分たちで作るという発想なんですけども、26年、今から始めて26年ぐらいかかっちゃうんだと思うんですけど、小学生から始める医師育成制度、荒唐無稽なことってんじゃないかと思われるかもしれませんが、やはり地域に必要な人材は地域で育てていくというその思いは、やっぱり子供にも大人にもしっかり伝えていくべきだと思いますし、仮にこの仕組みをつくってお医者さんにならなかったとしても、それ相応のレベルの子供たちがここから育っていくということは、絶対糸魚川市にとっては良いこ

とかと思います。今度は明確にもう医師育成ということなので、私は逆に親御さんたち、また医師会の人たちも、ある意味、何ていうのかな、試験的にでも取り組んでもらえる要素があるのであれば、チャレンジすべきだと思うんですけども、その辺の考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川市の子供たちから医師を志していただくというのは、大変重要だというふうに認識をしております。

先ほども市長答弁にありましたように、今年度の新しい取組としまして、富山大学からキャリアフェスティバルにご参加いただいた上で、若いお医者さんから、これは中学生が対象になるんですけども、医師の使命だとか、やりがいだとかというのを伝えていただくことによって、1人でも多く子供たちから医師を目指していただく、そういう取組をさせていただきたいと思っております。まだ保護者の関わりだとかについては、まだこういうふうな具体的な取組というのはまだありませんけども、今いただいたご提言も踏まえて、これからまた新しい事業が組めればというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

この質問と後半に出てくる子供のキャリア教育のところ、経済格差が学力格差をもたらしているという話と、あと体験格差の解消ということで、これが理系の子供を育てるとか、お医者さんになるのにすごく重要なポイントになってまして、大体10歳ぐらいまでにやばたくさんのいろんな経験をすることが、その考える能力であったり、物事に対して興味を持つ思考を作ったりすると言われております。だから、あえて小学生から始める医師養成ということなんですね。小学生の5・6年生になったときに、やっぱ前もここで言わせてもらいましたが、全国で今自分の立ち位置がどの程度にいるのか、中学生くらいから思いっきりその目標に向かって走り出すというのが非常に効果的なそうなんです。

ただ、その勉強の集中するよりも、10歳までのいろんな体験が、子供の能力を發揮させるというふうに言われております。そういった意味で、私はまだまだその部分では専門性はないですけども、もしそういう本当に本気で考えるのであれば、そういった専門家からもアドバイスもらいながら、やはりそういう子供の育成という部分で、私はチャレンジすべきだと思っております。少なくとも調査研究することはお勧めしたいんですけども、そういった考えというものはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに小学生のうちから目標を定めていくことが、大切と捉えておる部分もございます。と申しますのは、我々ジオパークを取り組んだときに、そういった関心を持った人たちが、この子供たちがおられて、そしてその発表などを通じながら、自分たちはさらにそれを高めて、そして高校の先生になったという事柄を考えると、やはりきっかけがないとそういったことにはならなかったと思いますし、そういう環境というものも大事だと思っておるわけでありまして。そういった点を医師に当てはめたときに、どのようなものがあるのか。そういったところを捉えていかなくちやいけないのかと思っておりますし、少子化の中において、その俗に言う英才的な教育というところに特化していく部分もあるのかもしれませんが、その辺をどのようにしていけばいいかというのは、大きな事柄じゃなかろうかなと思っております。

私はやはり生き残っていくというか、ふるさとの存続については、やはりそういった考えをしっかりと子供たちに持ってもらうことが大事ですし、大切だと思っておりますので、その辺はちょっと検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

非常にこの時点で前向きな回答いただいたと思っております。1つだけ、あえて言わせてもらいたいことがございまして、それは子供自体は、もう可能性はどの子も秘めてると思っております。ただ心配なのは、親御さんがその自分の子供に対して、何ていうのかな、できる、できないとかという部分を決めつけてしまったりとか。また、10歳までのいろんな体験することに対して理解とか、何ていうのかな、その仕組みを知らないがために、その子供のチャンスをもし奪ってしまっているんであれば、非常にそれはもったいない話であるというふうなことで。当然、子供の可能性の話もあるんですけども、親御さんのそういう理解、英才教育で何か詰め込むのではなくて、いろんなことを考えられるような、そのきっかけとして体験をさせるという、そういうところに重点を置いた糸魚川市のゼロ歳から18歳までの中にそういう体験教育のところにすごく力を入れる。

だから、経済的に苦しくて、例えばですよ、例えばディズニーランドを知らないだとか、USJ知らないんであれば、機会を設けて、ある条件、頑張ったら、そこに皆で行こうとか、あと登山も山登りあまり好きじゃないけども、見る景色がすごいんだというところをやっぱり行って見せてあげるだとか、あと深海魚とか虫とか昆虫のいろんな面白いの好きなものであれば、そういったその博物館行って見せてあげるだとか。あと一番手っ取り早いのがやっぱり本ですよ。本も、ただ読め読めと言っても好きにはなりませんよね。やっぱり親なり、おじいちゃんおばあちゃんなりが、一緒に大きな本屋さん行って、もうこの中から選んでいいんだよというような、そういったことで自分が選び取った本をやっぱり一生懸命読むようになると思うんですよ。

そういった体験をたくさん、たくさん積んであげると、おのずとその考える力、また自分で選んだという責任感であるだとか、そういうのが育まれるんで、むしろ子供というよりも、その親御さんのほうにそういったこの体験教育に糸魚川市は力入れてるんだっていうものをやはりぜひ前面に出していただいて、結果としてそれがお医者さんだったり、エンジニアになったり、弁護士になっ

たりという形が理想なんですけども、ただ喫緊の課題なもんですから、1つのお題目としては、医師に向かって小学生から頑張ろうよという、そういうスローガンのものなので、そういった形でぜひ理解していただければと思うんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに全国でいろんな場面で、いろんなところ事柄の中で活躍されている一流のアスリートや、またそういったいろんなジャンルで活躍されておる学者の皆様方におかれましても、やはり環境、小学生なり中学生のときの環境というのがやっぱり大事でなかろうかなと。

私は、大体人間の能力ってみんな同じだと思ってるんですが、どうしても地方のほうは、そういう今、議員ご指摘のようなそういった接する機会というのは少ないだけにおいて、どうしてもやはりどちらかという目標がなかなか定まらなかったり、そういったことに対する関心が薄くなっておる部分、その辺が違いがあるんじゃないかなと。

ですから、私も国際交流などにおいても、絶対地方でも必要だという形で取り組ませていただいておりますし、地方だからこれは都会と比べて仕方ないんだということではなくて、どこに住んでいても、またこの糸魚川に住んでも、ここの教育はやはりよかったんだと、大人になると思っただけのような教育にしていきたいと思いますので、なるべくこの地域間格差のない教育に持っていきたいという中においては、今ご指摘の点についても、どのようにしていけばいいかというのも視野に入れていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

本当に前向きな答弁ありがとうございます。あとは人材確保のためのお金の問題かなというふうに思いますが、またぜひよろしく願いいたします。

続きまして、带状疱疹予防接種費用の助成であります。

この带状疱疹につきましては、今いろんなマスコミでもいろいろ取り上げられてるんですけども、加齢などによる免疫力の低下が発症の原因となることがあります。50歳代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が、この带状疱疹を発症すると言われております。

そこで、50歳以上の市民の方に、これは南魚沼市の取組なんですけども、1回当たり2,000円から5,000円の助成を行っているということで、糸魚川市でもぜひ検討してもらいたいと。2種類の何かワクチンがありまして、生ワクチンですと8,000円ぐらい。不活化ワクチンですと1回当たり2万円から2万5,000円とちょっと高額なんですけども、やっぱ効果はあるということでございます。

带状疱疹になると、私、実は経験ないものなんですけども、説得力ないんですけども、帯状に体に出てしまうと本当ピリピリして痛い。早く終わる方もおられるんですけども、長い方、1年間ずっとそ

のピリピリに付き合わされるという、非常に苦しんでおられるという声もあります。

そこで、全国のいろんな自治体では、これについてぜひワクチンを打ってもらって予防を高めよ
うということで、先ほど1回目の質問でも言ったとおり、東京都では、もう都が半分補助するよと。
その代わり半分は自治体で頑張っ
てねという。新潟県は、まだ単独で南魚沼市だけなんですけども、
また各自治体からも県のほうにも要請しながら、80歳までに3人に1人ですからね、割合として
はかなり高い数字であります。明日は我が身じゃありませんけども、そういった角度からぜひ見て
いただいて、市も検討してもらいたいし、また県にも働きかけてもらいたい。またはほかの県内の
自治体とも連携して、こういったものを取り組もうよというまたその音頭取りを、また糸魚川市か
らやってもらえればなと思うんですけども、その辺改めてご回答いただければと思いますが、いか
がですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほど帯状疱疹について説明をいただきました。確かに発症しますと、合併症として顔面麻痺だ
とか難聴等も起こすというふうに聞いております。最近マスコミ等でも、確かにワクチンの有効性
については報じられておりますので、今お話がありましたように、市単独ですとなかなか難しい部
分がありますので、新潟県に働きかけていきたいと。ただ糸魚川市単独だけではなかなか難しいで
すので、いろんな自治体連携をしながら、県のほうに働きかけをしてみたいというふうに考えてお
ります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

私の予想していた満額の回答でございますので、ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、2番の緊急課題の取組（行政改革編）であります。

行政窓口の拡充、今ほども前向きな回答いただいたんで安心はしてるんですけども、この件につ
きましては、3月定例会で阿部裕和議員のほうからワンストップ窓口の設置ということで、市民課
長のほうからはワンストップ窓口、阿部議員さんからもお話しいただいたとおり非常に重要なこと
だと考えておりますと。やはり分かりやすく1か所で手続きが済むといった非常に高い利便性がござ
いますので、今後取組について積極的に検討してまいりたいと考えておりますと、阿部議員にお答
えしております。その3月から今日に至るまで、どのような取組がなされたか、ご紹介いただけれ
ばと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

先ほど市長が答弁したとおり、DXの推進計画庁内委員会のほうで「書かない窓口」を検討する

ことになりました。当初は、私ども市民課等1階フロア、あるいは2階の窓口のある部署だけで検討を進めようと、私、市民課長の立場でそういう考えがあったんですが、やはり庁内的に一体となって進めるべきだということで、その委員会の中で検討を進めるということにいたしております。

そのほか阿部議員からいただいた窓口改革についても、ワンストップ化について、やはり「書かない窓口」、ワンストップで窓口総合支援システムを複合的に入れた中で、全体的な改革について検討を進めておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

窓口につきましては、正直言って、デジタルの進む部分と、当然アナログでなきゃ困るという方もおられて、もっと言うと、このスマホの扱いであるとか、いろんな部分で多分、進めたいけどもなかなか思いどおり進まない場面も多々あるかと思います。でもそこでも、やはりその利便性をしっかり訴えながら、効率のいい窓口対応をぜひ進めていっていただきたいと思います。

ちなみにあれですかね、県内だと見附市さんのほうに何か視察行くようなことを3月議会で言われたんですが、そういったものを現地を見たりした検証とかされておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

現段階では、まだ見附市のほうに視察調査は行っておりませんが、委員会の中で検討の結果、そちらのほうへ視察へ行くということであれば、視察調査を実施したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ちょっと気の早いことかもしれませんが、いわゆる「書かない窓口」、つまり職員の方が来庁者からいろんなことを聞いて入力していくという、最後、署名だけ要るのかな。そういう手続だとか、あと「行かない窓口」は、やっぱりご自宅からスマートフォンとかパソコンを使って、マイナンバーカードがあれば、そういう手続が取れると。一步もうちょっと進むと、今度クレジットカードと結びつけると、その手数料も支払って、送ってもらうこともできるというのがあります。そういった部分では、ぜひまた先進地を見ていただいて、導入を急いでいただければなと思います。

あとお悔やみコーナーにつきましては、県内だと新発田市、長岡市、7月からは上越市さんも導入されて、私も母親亡くなったときは、そんなにいろんな部門はなかったんですが、やっぱ世帯主とかいろんな事業をされてる方は、やはりお悔やみコーナー、一括でやらないといろいろ大変だというふうにも聞いております。そういった意味でも、そのお悔やみコーナーについても一本化というのは、さっきの答弁だとできているのかな。その辺、今の体制としてできてるのであれば、再度ちょっとご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

お悔やみコーナーは、死亡の際の手續のワンストップ化でございまして、両事務所におきましては、既に窓口で全て1か所で対応させていただいておりますし、本庁におきましては、市民課のほうに死亡の関係の手續にお越しになった際に、なるべく1階の関係の手續であれば、市役所の受付のところで、お客様はそこにいていただいて、他課の職員が窓口へ来て、交代交代で対応させていただいてる状況であります。

いずれにしましても、やはりお悔やみの関係で一番多くて6部署の手續が必要になりますので、やはり職員が代わる代わる交代して手續をしましても、やはりまた一から、お客さんから同じお話をさせていただくことになりますので、本来の一番ベストなワンストップ化ではないというふうに私は思っておりますので、「書かない窓口」、窓口支援システムを含めた中で考えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

総合的な窓口については、ぜひ今ご答弁いただいたとおりに進めていただきたいと思います。ちょっと気になったことが1つございまして、私、家族の亡くなったとき、日曜日に市役所に来て、死亡届とか対応していただいたんですけども、守衛さんが受付されておったんですが、たまたまお昼どきにお邪魔したもんで忙しいのもあるし、あとちょうどその時間帯、人の職員さんの出入りがたくさんあって、何かすごく時間がかかってしまったりしたんで、もうちょっとそういう死亡届の対応であるだとか、そういったところはちょっと善処していただいたほうが、私はたまたま時間ありましたけど、もし急ぐ方がおられるとちょっといい印象を与えないのかなという気がしたので、そういう死亡届というのは結構急いで対応をしなければいけないものかと思っておりますので、そういったところをちょっと工夫していただければなと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

年間800を超える死亡届を受理させていただいております。やはり議員おっしゃるとおり、休日での死亡届、非常に多い状況でございまして、やはり当直員につきましては、それ以外の業務もたくさんありまして、お客様が集中する時間帯もあろうかと思っております。職員を増やすことはなかなか難しい状況ではございますが、もし市民課のほうでも休日窓口等を実施しておりますので、もし職員がおれば応援体制を取ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

あと誤解のないように、守衛さんの対応が悪かったんじゃないんで、たまたま人の出入りが非常にたくさんあって、そのチェックをするので大変だったみたいなんで、それを言いたかったわけです。私の受付に対して問題があったわけじゃないんで、そこだけはちょっと誤解しないでいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

続きまして、2番、LGBTQの件であります。

私の確認ミスでね、制服については対応されているということですし、公共施設については、その施設によって対応をしているとなったときに、その施設の管理者であったりだとか、その施設にいる方の利用者のいろんな方がおられるのをどういうふうに認識しているかによって、その施設の改善がされるか、なされないかってところに問題があります。

国会では、こういうものに反対をする議員もおられてちょっと話題にもなっておりましたが、私はやはり差別にならないということもあるんですが、安心してトイレが使えるというところに着目して、ぜひそういったところも配慮すべきというふうに考えておるんですが、施設任せにならないで、一定のレベルでやはり市が音頭を取りながら、そういう施設整備を行ってもらいたいんですけども、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

お答えします。

性的な少数者の方への配慮とともに、やはり体の性別とその性の自認が一致する多くの方に対する配慮というのにも必要かと思えます。議員ご提案のとおり、多目的トイレというのは、そういった面で使い勝手のいいといいますか、そういう施設であると思いますので、施設管理者と協議する中で、やはり大規模改修ですとか、そういったときを捉まえて、今後増設していくような方向を検討していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

次に、発達障害、適応障害等の就労支援であります。

私には友人がおりまして、いろんな会社のトラブルあって適応障害みたいになってしまった。でも働く意欲があるんだけど、やはり信用してる人としかなかなか作業できないということで、一緒に草刈りの仕事とかやれんかやというふうな相談を受けました。要は、その何ていうかな、ケース・バイ・ケースになるんですけども、そういった柔軟な働く意欲のある方については、ちょっとソフトな形で一緒に作業する。仕事ができるという環境が少しあると、その社会復帰というか、部分的ではあっても、そういうところから立ち直るケースがあるんじゃないかというふうに思いまし

て、ぜひそういった草刈り、または除雪、当然、体力のない人にやるわけじゃなくて、身体的にできて、ただ人との関わり方が難しい方についてはそういった作業の場を提供できるようにちょっと研究してみるだとか。そういったところもやっていくことによって、今後、今、人口減少であるだとか、あと高齢化であるだとかとなったときに、やっぱ社会の役に立てるといふ、何ていうか自覚を促す意味でも、そういった場をぜひ検討してもらいたい。そうした場合に多分シルバー人材センターの職員の方たちというのが、いろんなこれまでのノウハウを持っているので、少し協力いただけるんじゃないかというところで提案してるんですけども、そういったところの検討をお願いしたいんですが、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

発達障害は、脳の機能の部分での発達に関係する障害であります。また適応障害は、置かれている環境にストレスがあって、心的に症状が出ている方というところで違いはありますが、いずれにしてもその障害の特性や程度というのは、一人一人で異なるものであります。いろんな社会で働くことをいろんな形で働ければいいというふうにして私も思っておりますが、そこには必ず支援をする方というところが不可欠になります。シルバー人材につきましては、高齢者の方が作業によって生きがいだったり活性化をする事業というところで、直ちにシルバー人材と障害のこととで調査研究するということは今のところは考えてはおりませんが、地域自立支援協議会の就労支援部会、特に就労部分に特化した関係者が集まって協議する場がありますので、いろんな形で働けることを支援するような形を検討してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

シルバー人材センターと言ってしまったの、私もちょっと早合点なようなところもあるんですけども、ただ、いろんな経験値からいって、多分協力してもらえるんじゃないかなということで提案しました。

②番にも書いてあるとこ、24時間の中で好きなタイミングで働くと。仕事も内職的なものだとかパソコン、そういったプログラムだとかいろいろあるんですけども、例えばお菓子作り一つとってもそうなんです、その自分の好きな時間帯に働けるという選択肢も非常に大事なことかなと思ってまして、一定の水準、一定の基準を満たすような仕事ができるのであれば、そういう働き方も提案していただとか。そうでないと、人材不足、人材不足と言っても、いけないと思うんですよ。高齢化、高齢化とただ言っても、しょうがないと思うんですよ。だから、今糸魚川市に住んでおられる方のやる気、気力を生かせるように、またいろんな人にこのスポットが当たるような仕組みというものを真剣に考えて、この市内経済循環というか、そういったところを本気になって考

えて取り組む。それが多分、糸魚川市の今後の魅力づくりになるかと思っておりますので、利益とか何ていうかな、それだけを考えれば、なかなか難しい問題ですけども、地域全体でこの経済を回していくという部分での、あと住む人のやりがいを見つけるという意味でも、そういったメニューづくりは非常に大事なかなと思っておりますので、その辺ちょっとトータル的に、市全体でトータル的に考えてもらいたいですけども、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど福祉事務所長がお答えした状況であったわけでありますが、以前、そのような対応したことがございます。それは草刈りではあったわけですが、しかし、やはりお一人で作業するというのは非常に難しい状況でございまして、やはりある程度の指導者が一緒になって対応しなくちゃいけない状況になって、非常にそれがだんだん大きくなっていつて駄目になったんですが、今、議員ご指摘のシルバー人材センターというご提案をいただきました。確かにそういった意味では、いろんな草刈りだけではなくて、いろんなジャンルで経験のある方がおられる中で指導したり、そしてまたいろいろと連携取っていただけるような方がいたら、そのシルバーの仕事ということではなくて、その仕事として、そういった関係者の皆さんと連携を取ってやれるという仕事、そういう枠組みはできないか考えていくのも、また一つの捉え方と思っております。

ただ、今言ったように、シルバー人材の中においては、今までそういったところがなかった部分がありますので、そういった市内には能力を持った、また技術を持った人もおられるとしたら、そういったとこの枠組みなんかも提供できるようなところも探っていくのかもしれない。今言ったように、その多様性をやはり探って、そしてさらに枠を広げていくというのも、いいのではないかと思いますので、ちょっと検討・研究させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ぜひ市全体という取組の中で、本当に少しずつ進む内容かもしれませんが、ぜひ取り組んでいただければと思います。ありがとうございます。

続きまして、駅北まちづくり戦略で、こども消防隊、体験をすることはできそうなんですけども、ちょっとおちゃらけた話になるかもしれませんが、こども消防隊が糸魚川市ありますことから、本当に駅北大火ということを考えてときに、子供たちが、この何だろうな、この下に書いてある歩行者天国化にもタイアップするんですけども、本当に何か水鉄砲を持って、町なかで思いっきり遊ぶみたいな企画であるとか。要はその水鉄砲で、表と裏に色の変わるようなプレート貼ってもらって、お互いに消火じゃないですけども消し合うようなイベントをやるとか。あと今、全国では何かティラノザウルスの着ぐるみを着たレースが非常に流行ってるんですけど、本町通り一直線走ってもらうであるとか。どうも大火のことがあると、何か被災者の方には申し訳ないんですけども、つ

らい思いというのはあるんですけども、やはりじゃあ大火を克服していくんだという部分でのイベントであるだとか、こども消防隊の育成であるだとか、そういったところにちょっと特化した取組を楽しくまちを明るくしていくような取組というのが、ちょっと話合いの中でちょっと欠けてるんじゃないかなと思ってまして。地元の地域の方いろんなイベントをしていただいているのは分かっておりますし、それはすばらしい取組なんですけども、大火のことからの踏まえた取組というのも、ぜひやってもらいたい。

また、そうしないと分散型施設といっても、今何か子育て支援施設のみで何か議論があるんですけども、分散型ですからね、やっぱ空き家・空き店舗についての利用であるだとか、もっと違った発想を持って地域をにぎやかにしていく。また周辺のところから人を呼び込んでいくということをもうちょっと本気で考えてもらいたいと思うんですけども、ちょっとおちゃらけたように聞こえるかもしれませんが、私は真剣に言ってるつもりなので、ぜひそういった考え方についてお考えあれば、教えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

それでは、こども消防隊の活動という点でお答えさせていただきます。

今、議員ご提言いただいた点につきましては、決しておちゃらけているとは私は思っておりません。実際の消防本部なんですけども、そういったちょっとミニゲーム感覚で実際に訓練をしていたらいいという計画で取り組んでいただいております。

ただ、子供がちょっとそうなると少しふざけ過ぎるかなという点もありまして、ちょっと課題もあるんですが、そういった点は、また課題解決しながら計画を進めていけばいいと思います。いずれにいたしましても、消防本部だけではなく、子供が関心を持って入隊いただけるような、実際、今年度ちょっと隊員が減ってしましまして参加率も悪くなってますんで、そういった取組も私必要だと思いますので検討し、取り入れて、そのことを取り入れるかどうか分かりませんが、取り入れていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

後半の部分にお答えをいたします。

議員ご指摘のとおりです。行政も今の子育て拠点の複合施設のほうの計画づくりのほうに全集中しているような状況でございまして、それも戦略に基づいて、にぎわいの基になる、人を呼ぶという点のところだけを今、私どもはどうしてもやっぱり狭い視野で見がちになっていました。今、キターレですとかそういう拠点施設ができることの、その先の、つながる、回遊、分散というところを意識しないと、せっかく多くの方に考えていただいた戦略というものが生きてこないと思っております。

ので、計画づくりの段階から、その先を見据えた仕事をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ありがとうございます。さっきの教育の話ともつながるんですが、もし可能であれば、この駅北のエリアが子供にとって可能性を伸ばせるような仕組みが満載になっていて、そこに親子連れが来たときに、アナログからデジタルから、また動植物とか、消防士の制服を着て頑張る姿の写真を撮るとか、そういったところの楽しいエリアにぜひしてもらいたいなというふうに思っております。で、なおかつ体験ができると。いい思い出になるという駅北エリアになることを期待をしまして、ちょっと時間がもうなかったんで、また委員会等でやりたいと思いますが、ぜひ前向きに捉えてほしいということをお願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で保坂議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を3時15分といたします。

〈午後3時04分 休憩〉

〈午後3時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

みらい創造クラブ、利根川 正です。

1回目の質問をお願いします。

1、増加する外国人の受入体制について。

6月1日より高校卒業予定者の求人の申込受付が始まりました。新潟県では、大学進学率が上昇している中、高校卒業者の就職者は減少して、糸魚川市でも依然と求人倍率は高いままです。

日本において、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は、日本の50年後の将来推計人口を公表しました。それによると、総人口は、2070年には8,700万人、2020年時点から3割減少で、高齢者は4割に達し、外国人がなんと1割を占めて、およそ870万人で、その人たちが日本で生活しているという報告でした。